（様式1）　　令和　4　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2890200096		
法人名	社会福祉法人　光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア篠原		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原本町３丁目２ー４		
自己評価作成日	2023年2月15日	評価結果市町村受理日	2023年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　H. R. コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6－25－224
訪問調査日	2023年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

8年目を迎えたオリンピア篠原は「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、お一人おひとりの「その人らしさ」を大切にし、これまで通りの尊厳ある生活を送るお手伝いをさせて頂いている。今年もコロナ禍ではあったものの「withコロナ」を意識し、少しずつ今までの生活を取り戻す生活へと変わってきた。テレビ電話やSNS、オンライン面会等でこれまでの繋がりが継続できるよう環境を整えた。また、地域との交流も少しずつ再開し、情報共有している。職員は正職、パート職かかわらずスキルアップするための研修を受けることができ、各々の成長とケアの向上に繋げている。オリンピア創設から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を遵守し、これからもより一層の飛躍を目指していく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

各種研修・カンファレンス・出勤時毎に「理念」の唱和等を通して「尊厳あるこれまで通りの生活を送るお手伝いをさせていただく」という法人理念の共有と実践に継続的に取り組んでいる。コロナ禍で制限はあるが、職員がアイデアを出し合って工夫し、入居者の生活の質・心身機能の維持・向上に努めている。季節感のある環境づくりや行事の飾り付け、日々の献立・食事・おやつ作りを常に入居者参加型で行い、趣味の継続や家事参加は入居者をサポートする自立支援を基本とし、共に生活するスタンスを大切にしている。研修・カンファレンス・PDCAサイクルに基づいたケアマネジメントにより、職員の資質向上と個別支援に取り組んでいる。方法を工夫しながら地域交流・外出・家族との面会等を徐々に再開し、入居者が今までの生活を取り戻せるよう努めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生活の主人公は利用者ご本人です。今まで通りの生活を送るお手伝いをさせて頂きます。」を理念とし、その実現のために「3つの約束」を掲げている。全職員が毎日の出勤時に唱和することにより、日々のケアの礎とし、共有・実践している。各ユニットの年間ビジョン、月間目標も理念に基づいており、スタッフ全員で話し合って決め、月間予定表に記載し、いつでも確認できるようにしている。	「オリンピア篠原の理念」「3つの約束」を明文化し「理念」には地域密着サービスの意義を明示している。また、各ユニットに掲示し、毎日の朝礼時は職員と入居者が唱和し、その後の出勤者も出勤時に各自声に出して読み共有を図っている。法人、ホームの事業計画をもとに各ユニットの年間ビジョン・月間目標を設定し、理念の実践に向け取り組んでいる。年間ビジョンは各ユニットに掲示し、月間目標は日々記録する「月間シート」への記載により意識付けを行い、カンファレンスで振り返りを実施している。月間目標は「月刊オリンピア篠原」にも掲載し、入居者・家族等にも伝えている。理念をもとに職員個々が個人目標を作成し、半期ごとに振り返る目標管理の中で理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域のイベント、児童館、こども園との交流等はほぼ中止となっている。また、日々の外出や買い物等も、控えることが多くなっている。しかし、児童館の作品展には入居者様の作品を出展したり、こども園の園児が花の日礼拝や、収穫感謝の礼拝にはお花や果物を持って来てくれたりと、感染対策をしっかりした上で、少しずつ交流を再開し始めている。	通常の地域交流・地域貢献は困難な状況であるが、自治会・民生委員・近隣の人々との日常的なつながり、児童館の作品展への出展、地域資源の活用は継続し、地域からの介護相談にも随時対応している。地域の春の祭りでは神輿や天狗の装いをした者が厄払いで立ち寄ってくれた。「花の日礼拝」「収穫感謝祭」には、こども園の園児が来訪し花・果物・歌をプレゼントし、入居者との交流も再開している。また、散歩・初詣・花見等で近隣に外出する等、時期を勘案しながら戸外での地域交流を徐々に再開している。オンラインコンサートで交流を広げる等、新しい試みも行っている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方や、入居者、元入居者のご家族のご紹介で、来られた方に対しては、随時ホームを見て頂き、介護に関する相談や説明する時間を設けている。また、法人主催で「オリンピア福祉塾」を開催し、認知症理解のための啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ禍で運営推進会議は、開催できていない。開催月毎に、メンバー全員にオリンピア篠原のご様子をお手紙にして、オリンピア篠原の様子をお伝えしている。また、電話でも近況報告等も行い、オリンピア篠原の様子、地域の様子等を情報交換している。	通常は、入居者・家族・あんしんすこやかセンター職員・民生児童委員・地域住民・行政書士・薬剤師・法人本部・ホーム職員を構成委員とし、2ヶ月に1回開催している。開催時は、議事録をホームページで公開している。2020年3月以降は会議の開催を休止し、2ヶ月間の報告を書面にまとめ、「月刊オリンピア篠原」と共に構成委員全員に郵送している。	・運営推進会議の議事録（報告書）のファイルを玄関ホールに設置する等、公開することが望まれます。 ・報告書に返信用紙を同封し、返信された意見・情報を次回の報告書で共有する等、書面開催でも意見・情報交換ができるよう工夫されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者やあんしんすこやかセンター職員とは、随時電話で情報交換を行っている。コロナに関する情報は、市や県からの感染防止策、検査キッドの供給等で協力頂いている。また、神戸市灘区保健所の方に来所して頂き、感染対策指導して頂いた。	運営推進会議を通して、あんしんすこやかセンターとの連携がある。県や市からコロナに関連する最新情報の提供、ワクチン接種・検査薬の提供・物品支給等についての連絡等、県、市との連携をホームでの感染症対策に反映している。また、感染症発生時の蔓延予防対策について、区の保健センターから指導・助言を受け連携している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を全スタッフが共有するため、アンケートや研修を実施し、日々のケアに問題がないか等も常日頃から注意している。また、玄関やエレベーターには日中鍵をかけず、自由に出入りができるようにしており、心理的な鍵もかけないように取り組んでいる。	法人として行動制限の禁止を大前提とし、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化のための指針」を整備し、「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催している。会議では、各ユニットからの報告と、スピーチロックについての注意喚起等適正化に向けた検討を行っている。議事録は各ユニットで回覧し、職員の周知を図っている。ホーム内の「身体拘束廃止・高齢者虐待防止研修」、法人の「全体研修」を実施している。ホーム内の研修は複数回に分けて実施し、「全体研修」は伝達研修により周知を図っている。「身体拘束チェックリスト」による意識付けも行っている。各ユニット出入り口・エレベーター・玄関は、日中は施錠を行っていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を理念の根本とし、研修において定義や関連法、日々のケアについて学んでいる。また、日々のケアにおいて虐待に繋がりそうなことがないか注意しながら取り組んでいる。	上記身体拘束廃止と同様に、高齢者虐待防止について研修を実施し、周知を図っている。「不適切ケアチェックシート」により、職員個々の振り返りと意識付けを行うと共に、ユニットリーダーが集計結果を今後の取り組みに活かしている。気になる言葉かけや対応があれば、ユニットリーダーが個別に助言や説明を行っている。相談しやすく協力し合えるユニット内の環境づくりに努め、職員の不安やストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス研修による権利擁護の研修を受け、制度の概要、利用の仕方を学び、相談があった場合には速やかに支援ができるように関係機関との関係を作っている。現在成年後見制度を利用している方は3名おられる。	権利擁護に関する制度について、法人行政書士による研修を実施し、研修記録と資料の回覧により職員に周知を図っている。現在、3名の入居者が成年後見制度を利用している。今後も制度利用の必要性や家族からの相談があれば、法人事務局と連携し支援できる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には自宅訪問もしくは見学を兼ねて来所して頂き、契約に関することについて十分に時間を取り説明し、理解・納得して頂いた上で契約をしている。また、解約、改定等の際にも十分に時間を取りご説明させていただいている。	見学が難しい時期はフェイスタイムを活用し、フロアの雰囲気や生活の様子を伝えられるよう工夫してる。自宅訪問は管理者とユニットリーダーが行い、入居後に望まれる暮らしについて聴き取りを行い、法人の理念や方針、ホームでの生活について具体的に説明している。これまで通りの自由な暮らしとリスク等について、理解と納得が得られた上で契約につなげるようにしている。契約時は契約書・重要事項説明書・重度化した場合における対応に係る指針・個人情報使用同意書に沿って説明を行い、文書で同意を得ている。契約内容改定の際は、変更内容を説明した文書を郵送し、文書で同意を得ている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会自粛のお願いが続いている。直接会うことは難しいがオリンピアから電話にてご家族とお話しして頂き、情報交換を大事にしている。また、SNSを使ってオリンピア通信を発信し、ご家族からのご意見もSNSを通じてお聴きすることが多くあった。また、全職員がすぐに対応できるよう口頭での申し送りに加え、連絡ノートでの回覧により周知している。	家族の直接面会、家族懇談会、外出、運営推進会議を休止しているため、電話での近況報告と意見・要望の把握を頻回に行うようにしている。「月刊オリンピア篠原」に写真を多数掲載してホームやユニットの様子を伝え、意見・要望を表しやすいよう取り組んでいる。また、SNSを使って「オリンピア通信」を発信し、入居者の生活の様子等を写真・動画で個別に伝え、家族の意見・要望をSNSを通して把握する取り組みも行っている。家族から把握した意見・要望は「連絡ノート」で共有し、個別の支援や内容に応じて「介護計画」に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見やチャレンジを積極的に採用している。職員は日常的にリーダー、管理者に相談できる形がある。また紙面カンファレンスを定期的に実施したり、ユニット毎のグループラインを利用して職員をフォローし応援、支援している。	検討事項があれば、随時、各ユニットでカンファレンスを行い、議事録の回覧で周知し、職員の意見を反映できるように取り組んでいる。月に1回以上「紙面カンファレンス」を行い、利用者個々のケアや業務等についての意見や気づきを職員が自由に記入し、ユニットリーダーが集約する取り組みも行っている。日常的な意見・情報の交換や共有は、「連絡ノート」・ユニット毎のグループラインを活用して行っている。定期的に人事考課・目標管理の面談を行い、随時職員の意見を個別に聴く機会を設けている。毎月の篠原・灘合同のリーダー会議では、理事長・ホーム長に職員の意見・提案を報告し、アドバイスや指示を受けている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では職員一人ひとりの目的や目標を明確にし、各々のチャレンジが評価に直結するよう自己評価、人事考課という評価制度を導入している。また、ユニットリーダーは定期的に個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、能力に合わせて、新人研修、リーダー研修など研修制度がある。また、現場ではそれぞれに必要なトレーニングシートを作成し、チームで協力して育てている。働きながら資格取得を目指す職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神戸市主催のオンラインによる認知症介護実践者研修などの外部研修に職員が参加したり、地域の小規模特養の運営推進会議のメンバーとなり、情報交換して、外部との交流やネットワークを作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、入居者様の立場に立って、入居前・入居時にご本人の思いをしっかりとお聴きし、安心して新生活が迎えられるよう配慮している。見聞きした情報は、職員間で共有し、信頼関係の構築が早く出来るよう準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族との面談や見学の場を設け、実際のケアを見ていただき、不安や要望などをお聴きし、把握している。ご家族の思いをしっかり受け止め、信頼関係の構築の上、入居していただけるようにしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後直ぐに24時間シートを活用し、ご本人の困り事やニーズを把握している。また、ご家族の不安等も的確に把握し、その時に必要な支援を見極めて提供している。他のサービスが必要な場合は、法人内で情報共有し、ご本人・ご家族にサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活の主人公は入居者様であり、職員は生活のお手伝いをさせていただく。」という理念のもと、お互いが支え合い、時には入居者様から生活の知恵などを教えて頂きながら、共に生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「今まで通りに誇りを持った生活を送って頂く」という理念のもと、SNSや電話を使って随時情報を発信し、ご家族の協力が必要であることをお伝えし、今までの生活を教えて頂いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で日々の外出や美容院、お買い物、定期的に行かれていた教会など、入居後も継続されていたことが出来なくなった。しかし、馴染みの方との関係はお手紙のやり取りや、電話を掛けるなどして、これまで通りのつながりを大切にしている。また、訪問理美容など新たな馴染みの関係作りができるよう定期的に同じ方に来て頂けるよう配慮している。	家族記入の「生活歴シート」やセンター方式の「アセスメントシート」をもとに、馴染みの人や場所についての情報を共有している。通常の、家族・友人・知人等の面会、馴染みの場所への外出は休止している。リモート面会・ガラス越しの面会・電話での会話、手紙・はがき・カードのやり取りの支援、SNSの家族のグループラインへの情報発信等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう工夫している。玄関ホールでの直接面会を2023年3月より再開している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いが助け合い、支え合えるようお手伝いさせて頂いている。入居者様同士で相談し、作りあげていく生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切にし、サービス利用終了後も、そのご家族や知人の方のサービスについて、相談を受けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で外出できない不安や不満を、日々の生活の中での会話や表情など、少しの変化にも注意し、ご本人の希望や思いを汲み取るよう努めた。室内でも季節を感じて頂けるよう、季節のお花を一緒に植えたり、料理やお菓子作りを楽しんだ。また、個々の情報は職員間で共有し、日々のケアに反映させるようにしている。	家族記入の「生活歴シート」やセンター方式の「アセスメントシート」を活用し、入居者個々の生活スタイルや暮らし方の希望の把握に努めている。定期的な再アセスメントでシートを更新し、変化や追記事項を記録し、個別支援や介護計画に反映できるよう取組んでいる。日々の会話の中で把握した内容は、連絡ノート・紙面カンファレンス・ユニットカンファレンス等で共有を図っている。お菓子作り・園芸・編み物等の趣味や、化粧・おしゃれ等の生活習慣が継続できるよう個別支援を行っている。言葉での把握が困難な場合は、表情・行動から汲み取ったり、家族からの情報を参考に把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にするため、ご本人（センター方式によるアセスメント）、ご家族（入居時生活歴シート）から情報収集を行っている。これらを基に、生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、お一人おひとりの生活状況・心身状況など新しい発見や些細な変化も正確に把握できるよう努めている。また、全職員が申し送りノートを活用し情報を共有している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い、日々の生活の中での様々な情報、主治医の意見も組み込んだカンファレンス、モニタリングを職員全員で関わっている。3ヶ月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	家族記入の「生活歴シート」・センター方式の各種「アセスメントシート」等をもとに、初回の介護計画を作成している。個人ファイルを設置し介護計画の周知を図っている。「月間シート」に介護計画のサービス内容の番号を付けて表示し、介護計画に沿って実施したサービスを記録できるよう工夫している。入居者の状況や生活の様子は、iPadの「ケア記録アプリ」に詳細に入力している。「月間シート」「ケア記録アプリ」「紙面カンファレンス」で入居者の状況やケアについて共有や検討を行い、3ケ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、入退院時、介護保険更新時、そして看取りなど心身状態に変化があった際にも見直しを行っている。介護計画見直しの際は、「サービス計画書評価」でのモニタリング、センター方式の各種「アセスメントシート」と「リスク予測シート」での再アセスメントを行い、カンファレンスを実施している。カンファレンス議事録には前回計画からの考察と今後の指針を明確にし、入居者・家族の意向や主治医等関係者の意見も記録している。「ケア記録アプリ」の記録方法については、ユニットリーダーが入職時にマニュアルに沿って指導すると共に、随時記録を確認して個別に指導・助言を行い、標準化に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの日々の生活の様子を、iPadに入力し記録している。「入居者お一人お一人の生活の証」「日記は職員が代筆している。」という気持ちで記録している。その中でも特に必要な事柄は申し送りノートにも記録し、全職員で情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、しっかり話し合いの場を設けている。ご本人にとって生活しやすい環境を整えるようにしている。看取りや重度化に関しても医療との連携を図り要望に応えている。また、住み慣れた 地域で生活をしていけるように努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事がすべて中止となった。買い物や散歩といった外出も控えることが多く、ご家族も含めて来訪者もほとんどなかった。そんな中、児童館の作品展に出展したり、こども園からのプレゼントを受け取ったりと少しずつ交流が再開し始めている。散歩等で出た際は近隣の方々と笑顔で挨拶を交わすことができた。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定し、受診していただけるよう支援している。入居後も本人、ご家族の意向により主治医を変更することがある。コロナ禍で定期的な受診が難しい時は、かかりつけ医への情報提供をしっかり行い、連携を取るようにしている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、今までのかかりつけ医の訪問診療・通院受診、協力医療機関による内科・歯科・皮膚科・眼科・耳鼻科の往診等、希望に沿った受診が受けられる体制がある。訪問看護との連携体制もある。また、入院、手術等が必要な場合は神戸労災病院が協力病院として提携している。通院に家族が同行する際は、入居者の状態や様子を記載した書面とバイタルの記録を情報提供し、各医療機関と連携を図っている。受診結果は「ケア記録アプリ」「往診記録」「通院記録」に記録し、必要事項は「申し送りノート」にも転記し、職員間で情報共有している。法人内の看護師が定期的に来訪して健康管理を行い、適宜、相談対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来訪する法人内の看護師に適宜相談等を行い対応をとっている。事故報告、入退院情報等も随時連絡している。また個別に訪問看護が入る時には、密に連携を取りその方にとって最も安全、安楽なケアが行えるよう、情報共有している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にこれまでのご様子等を情報提供し、共有している。また、定期的にご家族や、病院に電話連絡し、早期退院に繋げている。退院前には、医療機関、ご家族とのカンファレンスの場を持ち必要な対応方法等の最終確認を行い、安全に暮らしていただけるよう努めている。	入院時は「看護連携サマリー」で情報提供している。通常は、職員が仲の良い入居者と一緒に面会に行き、病院関係者とも情報交換していた。現在は、主に電話で家族や地域連携室・病棟看護師と連絡を密にとり、早期退院に向け連携している。把握した内容は「申し送りノート」で共有し、入院中のご様子は「ケア記録アプリ」に記録している。退院前カンファレンスがあれば参加している。退院時は「看護サマリー」「診療情報提供書」等の提供を受け、ユニットリーダーが「退院時対応」にまとめて、疾患等についての資料と一緒に回覧し情報共有している。退院後は必ず介護計画を見直し、適切な支援につなげている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明している。その後もその都度状態に合わせて、ご本人・ご家族のご意向を伺うよう随時話し合いの場を設けている。その上で、必要な医療機関との連携を取り対応し、安楽に過ごして頂けるよう支援を行っている。最期の時間を大切にし、ご家族の気持ちに寄り添い、支援している。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿ってホームの方針を家族に説明し、同意を得ている。日頃から、体調・状態の変化に応じて家族と話し合いの場を設け意向を確認している。終末期を迎えた段階で、主治医・看護師・家族・管理者・ユニットリーダーで「ターミナルカンファレンス」を行い、家族の意向や今後の方針を確認している。家族に看取り介護の意向があれば、「看取り介護計画」を作成し同意を得ている。看取り介護に向け、職員に資料回覧による研修を実施し、希望があれば家族にも資料を配布し家族の不安の軽減に努めている。看取り介護終了後にカンファレンスで振り返りを行い、「サービス計画書評価」に記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的に実施し、緊急時の連絡・報告体制を全職員が理解している。安全確保を最優先にし、その後の対応は指示の下に行う事の周知を徹底している。判断を誤らないよう、管理者とリーダーは情報共有を行っている。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した消防避難訓練を実施し、それぞれの対応の仕方を身につけている。全スタッフが確認できるよう文書にて回覧し、周知徹底している。また地域の自治会との連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるようにしている。また各フロアには食料や水の備蓄を準備している。	年2回（2022年度は5月・11月）、ユニット合同で、消防設備業者立ち合いのもと、昼間・夜間想定での消防避難訓練を実施し、可能な利用者は参加している。訓練実施後は「自衛消防訓練結果報告書」を作成し、講評・反省も記載し、参加できなかった職員には朝礼時の伝達と報告書の回覧により周知を図っている。「灘区暮らしの防災ガイド」を回覧し、資料研修も行っている。令和4年度は、「おやこ防災講座」のオンライン研修を職員・入居者が一緒に視聴し、自然災害時の対応について学ぶ機会を設けた。運営推進会議開催時は地域との連携体制を築き、避難場所として協力することを伝えてきた。3日分程度の非常用食料・水・備品等を各ユニットで備蓄し、ユニットリーダーが「備品在庫チェック表」で管理している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するため「敬語でお話しする」「尊厳ある生活のお手伝いをする」という約束事を全職員が理解し、徹底している。新入職の職員にはまず最初に基本的な考えを説明している。	「法人理念」「3つの約束」等に「敬語」「尊厳保持」について明示し、各ユニットに掲示し、毎朝入居者と一緒に、または出勤時に個別に唱和し、理解の定着を図っている。法人の全体研修、ホーム内の各種研修の中で繰り返し学ぶ機会を設け意識向上に努めている。また、ユニットカンファレンスのテーマとして取り上げ「不適切ケアチェック表」を活用して各職員が振り返る機会を設ける等、具体的に理解を深められるよう取り組んでいる。「月刊オリンピア篠原」等の写真利用については入居時に同意を得、個人ファイルは各ユニット事務所の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、入居者様には自己決定していただける依頼形でのお声かけを徹底している。家事や外出といった日々の活動も、こちらからも提案し、ご本人に選択して頂けるように努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、1日の予定は毎朝の会話の中から話し合って決めるようにしている。お一人おひとりの生活のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人に選んで頂けるようお手伝いしている。今まで通りのその人らしいスタイルを大切にしている。またマニキュアを塗ったり、行事や外出の際には、お化粧をしたりとおしゃれして頂けるようお手伝いしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から食事の準備、片付けまでを入居者の皆様が力を合わせ、料理に取り組んでいる。季節の食材、行事食等入居者様にその都度伺いながら、「食」からも季節を感じて頂いている。また「食事の時間は心が開く時」ということを全職員が理解し、食事の時間を大切にしている。	献立は、季節感、行事食・イベント、郷土料理等を取り入れて、各ユニットで利用者と一緒に考え、法人内の管理栄養士が栄養バランス等を確認している。アイランドキッチンで、野菜の皮むき・カット、調理、後片付け、おやつ作りを利用者参加型で行い、入居者が得意分野で力を発揮できるよう支援している。献立作りや調理の時間も入居者との会話を大切にし、入居者が役割を感じたり回想できる機会作りを行っている。食事中は職員がサポートし、家庭的な雰囲気で食事が楽しめるよう工夫している。外食が困難な状況であるため、ホーム内で「食」が楽しめる機会作りを強化し、入居者のリクエスト食や行事食、おやつ等の内容を充実させている。柏餅・桜餅等の季節のお菓子を入居者と一緒に手作りし、夏祭りには屋台風の演出を行い、クリスマスやハロウィンには料理・デザートと共に部屋の飾りつけやテーブルセッティングにもこだわり、準備段階から入居者も参加する等、工夫している。おせち料理は老舗料理店に発注し、花見弁当・敬老の日御前等も外注する等、変化が楽しめる機会作りを行っている。誕生日は、周年ケーキ・寿司ケーキ等、入居者に合わせて祝えるよう工夫している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様と一緒に食事をすることによって食事、水分量と共に好み等を把握している。体調に合わせたものになるようにし、健康面も考慮している。栄養面は法人内の栄養士にアドバイスを求めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、衛生面だけでなく、身だしなみの部分も含め、食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時、口腔内の状態を観察しつつ、これまで通りご本人にしていただくように支援している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターン・習慣をiPadに記録している。ご本人の自尊心に配慮し、極力肌着を使用していただけるよう工夫している。トイレでの排泄を促し、失敗を減らせるようにケアを行っている。紙パンツ等の使用をできるだけ減らしていく努力をしている。	iPadの「ケア記録アプリ」排泄記録により入居者個々の排泄状況・排泄パターン・習慣を把握し、基本的には日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は定時の声かけや巡回時の入居者の動作サインから判断して、随時トイレへの誘導支援を行っている。排泄用品等の検討事項がある場合や退院後等には「連絡ノート」で情報共有し、状況に応じてカンファレンスで検討し、入居者の思いを尊重し、家族の同意も得て、現状に適した介助方法や排泄用品の使用につなげている。周囲に配慮した誘導時の声かけ等、入居者のプライバシーや羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において食事のメニュー、水分量を工夫し予防に努めている。便秘傾向の方は特に、水分摂取が十分に行われるよう注意している。また、体操等運動や入浴時の腹部マッサージでも便秘が解消されるように努めている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの習慣や希望に応じて、入浴日は固定せずに入っていただいている。入浴中は安全に配慮しながら、その方がリラックスし満足を得られるように、ゆったりと入っていただけるよう支援している。	「入浴一覧表」iPadの「ケア記録アプリ」で入浴状況を把握し、適宜声かけを行い、全入居者が週2回以上入浴ができるよう支援している。入居者の生活習慣を把握し、回数・曜日・時間を固定せず、体調・気分・タイミングに合わせて入浴ができるよう配慮し、実施後は「ケア記録アプリ」に入浴の様子を入力している。一般浴槽の個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、自身のペースでゆっくり入浴できるよう支援し、身体状況や希望に応じてシャワー浴・足浴等にも対応している。また、ゆず湯や、仲の良い入居者同士の入浴にも対応し、入浴をより楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調や、生活リズムを大切にし、ホームとしての就寝・起床時間は設けていない。夜間眠りにくい時には眠ることにこだわらず、ご本人のペースで休んでいただけるようにスタッフが一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は毎回処方内容を確認し、変化があった際は内容を申し送りノートに記入し、最新のお薬リストで全職員が確認できるようにしている。薬の内容や飲み合わせの相互作用等、可能性のある副作用を理解し、安全な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの生活歴を伺い、入居者様が中心となって生活を送っていただけるよう、家事や様々な事柄を分担していただいている。皆様が自然と助け合い生活が送られている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出は「出かけたい」と仰る時に、その都度外出して頂けるように努めていたが、コロナ禍において外出の機会がほぼなくなり、通院等必要最小限の外出しかできていない。1階エントランスにテーブルと椅子を置いてお話ししたり、玄関にプランターを置き、お花を植えて観賞し、季節や外気を感じて頂いた。	通常は入居者や家族の希望に応じて積極的に外出支援を行っている。コロナ禍のため通常の外出は行えていないが、場所や時間帯に配慮しながら、近隣を散歩したり、梅や桜を見に出かけたり、初詣、ドライブ等、短時間でも戸外に出かけられるよう取り組んでいる。エントランスにテーブルセットを設置して外を眺めて話したり、玄関前のプランターに花を植えて水やりや鑑賞をする等、外気に触れ季節を感じられる機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの生活をしていただくために、お買い物の際には入居者様ご自身が直接支払いをして頂いていたが、コロナ禍で買い物にも行けなくなっている。買い物に行けるようになった時には、ご自身のお財布でお買い物をして頂けるよう、準備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、個人の携帯電話やホームの固定電話で直接お話をしていただいている。また、面会の自粛期間には、テレビ電話やSNSを使って、連絡を取り合っている。クリスマスカードや年賀状、普段からお手紙のやりとりができるように、今まで通り支援しており、お手紙は書きたい時に直ぐに書いていただけるように準備している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家としてとらえ、共用スペースには季節感のある花や写真を飾っている。また、皆様が自由に過ごして頂けるように、状況に合わせて配置変えを行い、入居者様同士の会話が弾むよう工夫した。	各ユニットの共用空間は明るく開放的で、季節感のある生け花や写真が飾られ、家庭的な温かみが感じられる。テーブル席・ソファセットを配置し、入居者が思い思いにくつろいだり談笑できる環境である。アイランドキッチンから調理の音や匂いが感じられ、入居者が得意分野や力量応じて調理・掃除・洗濯物干し等に参加し、生活感も取り入れている。日課としての体操や運動、趣味を取り入れたレクリエーション等、共用空間で集団や個別に活動できるよう支援している。外出行事が行えないため季節行事に力を入れ、入居者の意見を取り入れながら一緒に考えて制作や飾りつけを行い、制作段階から楽しみながら参加できるよう工夫している。今年度は新しい試みとしてオンライン花見を企画し、桜並木の映像を見ながら花見弁当を食べ、室内でも季節を感じられる機会も設けた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士がゆっくりとお話をして頂けるよう、リビングから見えにくい場所にもソファを設置したり、自由に居室を訪問して、語り合ったり出来るようにしている。また、リビングにはカラオケやカルタなどお好きなことを楽しんでいただけるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通りの生活を送って頂くため、馴染のある家具をもって来て頂いたり、お好みの家具や物品を使用して頂けるよう、ご家族と相談している。居心地よく安心して暮らせる環境になるようにお手伝いをしている。	居室に洗面台・ベッド・クローゼットが設置されている。入居前の自宅訪問で自宅の雰囲気やレイアウトを把握し、居室担当者が入居者・家族と相談しながらコンセプトを決め、自宅に近い居室の環境づくりに取り組んでいる。箪笥やテーブル、椅子、鏡台、テレビやラジオ、仏壇、自作の絵画、書籍・帆船等、使い慣れた物や好みの物が持ち込まれその人らしさが感じられる。入居者の状態の変化に応じて家具の配置等を変更し、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じてお料理等の家事に限らず、趣味や得意な活動ができるように提案したり、促したりし、お一人おひとりが楽しみながら、かつ自立した日々を送って頂けるように努めている。		